（十二日夕刊）
# 磐城新聞
休刊 大祭第一第三日曜
定價（壹枚二錢、壹ケ月五十錢、郵稅十錢）
廣告料二行五十錢指定廿錢增
發行兼編輯印刷人 蓮沼龍輔
發行所 福島縣平町田町拾六 磐城新聞社 電話五六四番

怪奇小說 **遂に謎は解けた**（中）

北島聰一 投

中この奇怪なる事件の謎の鍵を握つてゐると言ふ田島の口からその眞相が洩れやうとしてゐるので思はず私は膝を乗出した。

「よくきいてくれ、藤本君はもうこの世の人ではないのだ、今迄これを秘密にしてゐたのは深い事情がある僕は今更彼の兩親に合はせる顏はない、僕に變つて君からよく詫してくれ、これが僕の最後のお願ひだ」

彼は苦さを忍んで沈痛な面持ちで語り出した

「忘れもしない、今から八年前の五月二十七日の日曜日、僕はあまり退屈だつたので郊外でも散歩しやうと町はずれ迄來た時ばつたり藤本君に行き合つた。彼は握飯を腰にゲートル姿の輕裝でこれから○○嶽に登山する處だ、大低の山は皆登つたが○○嶽には登山した事がないから君も一緒に來いと誘はれる儘に自分も一緒に行く事にした、藤本君は大の山岳通で閑さいあれば登山する男だつた。

こうして二人は連立つて途中白水の阿彌陀堂に立寄りしばらく休みそこから○○採炭會社の專用鐵道に沿つてトンネル一つ越ゆると○○嶽は直ぐ目の前に見ゆるこの邊から○○嶽の麓には澤山の炭礦がありこの地方では一番最初に開けた丈けつて明治の終り頃には全盛期もうろ〳〵終り老齡期に這入り[illegible]廢坑になつ[illegible]も澤山あると言ふ事は前々から祖父さん達から聞いてゐたが、實際行つて見ると恐しい淋れ方だつた石炭の積込場や空家になつた炭坑の事務所らしい建物等も長い間雨雪にさらされ軒も傾き荒れ放題になつて全盛期の面影すら[illegible]だつ[illegible]、それを[illegible]へ面持だつた。

それからなほも鐵道線路に沿つてどん〳〵進んで行くと右手の山の中段頃に見晴好い廣場があつたので大分疲れてゐたものだからそこへ登つて一休みする事にした、その廣場も以前は竪坑や斜坑があつたらしく捲揚機らしいのが赤錆、錆ひた儘橫たわつてゐた。

その邊には殆ど人家がなく十數町を離れた彼方の山麓に疎らに人家らしいのがあるけれ共人が住んでゐるのかゐないのか朽て果てゝどうしても人の住み相な家とは思はれない、

僕等は茫々と繁つてゐる野草の上に腰を下ろして握飯を頬張つて腹をこしらへて充分其處で身ごしらへをした

この時ふと後を見ると二三間先に一間四方位古井戸らしいのがあつてまわりに五六本の朽木を赤く錆びたワイヤロープ無雜作な棚ゆつてあつた藤本君は喉が乾いたと言つてその古井戸に近づき棚に手をかけ中を覗かうとした刹那足元の土が崩れて、あつと言ふ間に落込んでしまつたです

僕は吃驚してすぐ樣かけより中を見ようとすると又も土が崩れ危く落ちようとしたのでやつと踏みとゞまつて一度は用心に用心をして腹ばいになつて中を覗いた[illegible]

※明日※ 新六月[illegible]日 舊四月[illegible]日 吉凶

▲一白 の人巡り來る幸運を逸せざる樣に努力あるべし▲二黑 の人蹉跌を生じ易き日故戒るべし內を守るべし▲三碧 の人迷雲眼前に橫はり[illegible]▲四綠 の人落付きて[illegible]がは廻るべし▲五黃 の人行違ひの生じ易き日何事も手控するが安全▲六白 の人其の位置に安んじ日課を怠らぬ樣にすべし▲七赤 の人小を得て大を失ひ易し進むより守るが無事▲八白 の人知つた振より不慣の事を持込れ難儀する日▲九紫 の人張合ひよく營業の進み行く日但し飲食注意

講談 **闇に咲く男達**（113）

髙田浪川作　尾崎雪蔭齋

馬鹿な目に逢つた

「親分只今けへりました」

太造が先づ源左衛門にあいさつした

「オ、皆、衆ご苦勞だつたどうだ、うまくいつたか」

源左衛門は事の成否が何より氣がかりである。

「何がおめへさん、本當に馬鹿々々しくつて話しにならねへやうな事なんで……」

佐吉は返答をした

「ナニ、どうしたといふんだ」

「實は親分、こう〳〵いふわけでかつぱに尻をやられたといふのが、あんまり馬鹿々々しくつて話しもできねへ」

「そんな筈はねへわけだ、わざ〳〵中吉がいつてきたのだから、それにまちがへありそうなこたはねへ、しかしそれが實際まちがつてゐたといやア今さらぐちをこぼしたところではじまらねへ、ナーニまだどこかでやつてしまふ時もあるのだ」

なにが何やらさつぱりわけ分らないまゝそのまゝとなつた、それにはこうしたわけがつたのだ白雲中吉は最初火柱の方から聞落に入りこんだのだが目ざとい長吉は早くもそれを看破した、それで一日平吉をひそかに呼ひつけ、物の道理せひ善惡をといて懷柔につとめた、平吉も正道に反抗することの惡い位は承知してゐる、源左衛門にくらべ長吉の男らしい態度に感心し聞者に入りこんだてんまつを語り、いさぎよく命を投出した、長吉は更に平吉を說いて全く自分の子分とし、源左衛門に對してはそれを秘し聞者をつとめをる如く裝はしてをつただから今回のことも三人が龜山へチャンとはいり、床につき寢た時刻に火柱方へ知らせ、狂言の空から一杯喰はしたものであつた。

源左衛門はまだ平吉の心變りを悟らない、只長吉をば殘らせなかつた事が殘念で殘念でたまらず、更にその機會をのみ窺つてゐた

一方の濱田元右衛門とお多福の新吉は一刻も早く大森の金五郎に知らさねば敵兩人に逃げられては大變と道中晝夜兼行四丁の早かごをとばし、六日目の朝大森へついた

「オ、ためへは新吉ぢやねへかッ」

丁度店にをつたは鬼面の政吉であつた

「オ、政吉の兄弟か、すまねへ水を一杯くんねへ、水をッ……」

「ヨシ合點だッ」

政吉は水を汲みに行きながら

「親分、今新吉がけへつてきましたよ」

「エーッ、新吉がけへつたか」

善惡何かの報道のあるものと藤兵衛はすぐ濱田元右衛門と新吉兩人とも道中のつかれで身体綿の如くなつてゐる、金五郎も政吉の知らせで飛んでくる

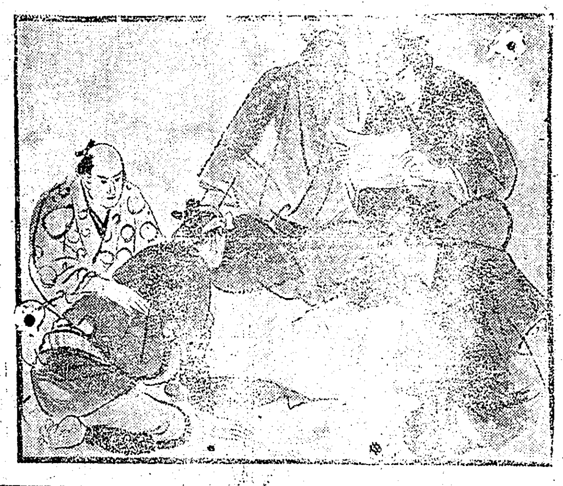
元右衛門と新吉の兩人に手當を加へ介抱した、新吉は元來が強情我慢な男だから子分子方の者が大勢見舞に來てはナカ〳〵デット寢てをられない。

「親分も金五郎さんも聞いてくんねへこの書面には概略が認めてあります、詳しいことはわつちからお話しします」

新吉はまだ疲れのいせぬ身体を無理に起した、金五郎はさつそく手紙の封を開き見ると伊勢の松阪火柱源左衛門方に大和田主膳、堀內小源太の兩人がをるからすぐ參るやう、詳細は新吉より聞きとりくれと書いてある

「實は親分、こう〳〵いふ次第で、松代で手がかりを得て四人が伊勢へ乗り込むと計らず大和田と堀內の野郎のゐることが分つたのです」

新吉はその詳しいことを物語つた。



廣告

平町田町
高久病院
電話五一三番

平町田町通り
磐城病院
電話一二四番

改正
片濱乘合自動車時間表

| 平發 | 江名發 |
| --- | --- |
| 五時三十分 | 五時三十分 |
| 六時三十分 | 七時 |
| 八時 | 七時五十分 |
| 九時 | 九時二十分 |
| 十時 | 十時三十分 |
| 十一時 | 十一時三十分 |
| 十二時三十分 | 一時 |
| 一時五十分 | 二時 |
| 三時 | 三時三十分 |
| 四時 | 四時四十分 |
| 五時二十分 | 五時四十分 |
| 六時三十分 | 六時四十分 |

平のりば 四丁目和泉屋前 新川町車庫
江名のりば 沖見屋 電話十四番 松屋
鈴木片濱自動車部
電話二一七
車庫呼出電話一四二

夜間診療
胃腸 十二指腸虫病 內科專門 內科部
梅毒 淋病 婦人病 皮膚病 專門 外科部
平南町 松村病院 電話七〇一

食用鳩（カルノー ホワイトキング シルバーキング）
ブリユウセキセイインコ　オカメインコ
アカボタンインコ　カルカヤインコ
ダルマインコ　小紋鳥
一紅鳥　錦花鳥
白文鳥　白十姉妹
脊ノコリ小斑
平町田町本通り
ペニヤ小鳥店

入院隨時（自炊の便あり）
耳鼻咽喉科專門
大和田醫院
平町南町（電一七〇番）

移轉御披露
店舖擴張の爲め左記に移轉いたしました新鮮な優秀品を澤山取り揃へ御披露の爲め特に勉强いたします。
平町四丁目橫通り 農工銀行脇向へ
根本茶店
電話（二一七）

平町舊城跡
青沼醫院
電話四〇三番

セール ネル 帶 側
平 龜田屋 電五七

青麻山 中風藥
定價一週分九〇 二週分一、七〇 三週分二、五〇
動脈硬化症、腦溢血、半身不隨、言語難澁、其の他中風より起れる諸症に偉効を奏す
……是非御試用を勸む……
代理店 平町五丁目角 山野邊藥局

宮內省御用達
ヒゲタ醬油
釀造元 銚子醬油株式會社
特約店 平町田町 廣瀨支店 電話五四番

御料理 平、新田町 喜柳 電話二六〇番

醫院開始
外科一般
脫腸肛門病科
花柳病科
平町田町大通り
安齋外科醫院
電話四三六番

入院隨意（自炊の便あり）
X光線科
外科專門
平南町
上田外科醫院
電話一二九

健康第一 健康は胃腸から
ホシ胃腸藥
クスリはホシ 星製藥株式會社

# 石城郡內の簡閲點呼日割
## 執行官は未定　八月二日から

郡下に於ける今年度の簡閲點呼日割は次の如く決定發表された

△八月二日植田小學校、植田町、渡邊村、山田村、泉村△三日勿來小學校、勿來町、錦村、川部村△四日田人小學校、田人村、石住、荷路夫、貝泊村△五日上遠野小學校、上遠野村、入遠野村（以上植田區）△六日湯本小學校、湯本町、磐崎村△七日小名濱小學校、小名濱町、玉川村△八日豐間小學校、豐間村、江名町、鹿島村△九日夏井小學校、夏井村、飯野村、高久村、神谷村△十日平第一小學校、平町、平窪村△十一日內郷村內町小學校、內郷村△十二日好間小學校、好間村、永戸村△十三日赤井小學校、小川村、赤井村△十五日三坂小學校、三坂、澤渡、永戸（以上平區）△七日四倉小學校、四倉町、草野、大野、大浦、久之濱（以上四倉區）△何點呼執行官は未定である

## 點呼執行官決定發表　蓑田中佐と尾佐少佐

未定であつた點呼執行官は本日次の如く決定發表された

△四倉區執行官歩兵少佐尾佐伍、附屬下士軍曹野龜四郎

△平區、植田區執行官歩兵中佐蓑田武五郎、附屬下士軍曹豐島幸三郎（以上）

# 夏の保健の爲め飲料水の檢査
## 特に三項に注意すべし　平署徹底的取締

平町松ケ岡公園の緑はいよ〳〵深く蟬さへ鳴き出し相馬夕景よりほの〳〵海の便りが語り合はされるのころとなつたがこれから暑くなるにつれ子供等は氷水やサイダー、ラムネ等の清凉劑を無暗に欲しがるが、しかも之等腐敗したものが誘因となり、下痢を起し胃腸カタルを併發したり或はチブス赤痢などの惡疫となるのもなか〳〵に多く子を持つ親の心配は一通りでないそれも五六才位から十才前後に惡戯盛りの子供が買喰ひからなので如何に親御が衛生など[illegible]さぼり聞き分けない、然る子供相手の駄菓子屋などは其處を付け目に完全に殺菌されない水に青、赤、黄等種々の果物汁を混じて美しい色を着け二日も三日も太陽に晒するのだから大概腐敗し危險その上もないので平署では市民保健上積極的にこの點を取締ることになり、びん詰の封緘、製造者の氏名及其場所の明記、製造の年月日等の諸項に就き嚴重檢査を勵行すると

# 藁谷氏青島へ
## 動員令に接す

石城郡湯本町出身陸軍三等軍醫正藁谷忠衛氏（磐中第六回卒業生にして愛知醫大教授八木澤博士の令弟）過般對馬要塞より名古屋輜重兵第三大隊附に轉じた、着任早々動員令を受けて青島へ出征した、因に氏は名古屋へ來ると早々動員令に接したので東京の家庭に在つたのは僅々二十日間であつたと

# 今年の苗代は稀れに見る良績
## 當局を信頼せよと　大山技師語る

過般來郡內各所に相次いで催されてゐた苗代品評會も昨今大体終りに近付き愈々田植期に入つて來たが郡內農村に催されて來た苗代品評會の成績に就いて郡農會大山技師は語る

「今年の苗代作成を審査して見るのに昨年から比較して長足の進歩で其の成績は頗る良好だが此れは農會當局の指導ばかりでなく一般農村の自覺からで眞に喜ばしい事だ難を言へば郡南部北方面共に種子の選擇に比較的無關心であつた事で縣當局の奬勵種が他質に適合してゐる事は専門家が相當研究の結果判然してゐるのだから一般農村では當局を信頼して此の奬勵種を採用して欲しい。播種量が多量に失してゐる傾きもあるが此れも前年に比べて餘程改善されて來た樣だ兎に角今年度の苗代は各方面共に相當良好な成績で此の分では餘程の增收を見る事も出來るだらう」云々

# 十二日迄は最高七圓
## 最盛期には白繭六圓　黄繭九圓五十錢搦み

平町地方の繭市況は極めて早きものが出荷されて十日取引を見たのであるがその後の出荷は十四日頃からでないと纏まつた出荷もなき模樣　引續き小口の早きものが少量宛出廻つてゐるに過ぎずして商況にも見るべきものなく早出廻りのものは繭質不良と系況冴わざる情等により十二日までの相場は最高七圓を當と唱られてゐたが該相場の好轉は今後繭質の良好に轉せらるると共に系況の好化するにあらざればその豫想は到底覺束なかるべく黑人筋觀測としては出廻り最盛期の相場は白繭六圓、黄繭五圓五十錢搦みが大過ない處であらうと見てゐる

# 昨今の上簇間際に斃蠶續出の恐慌
## 俄の暑さから來た影響　地方當業者の憂慮

上簇五六日前まで經過頗る良好を傳へられて豐收疑ひなしと期待されてゐた石城郡地方の春蠶兒は過般の急暑によつて妨げられたものか昨今上簇間際になつて惡化した地方あり斃蠶を出し或は不良繭を出してゐるから一般飼蠶家は愼重なる飼育を行ひつゝ斃蠶出現の豫防を講じてゐるがこの原因と見るべきものは早き蠶兒、食慾旺盛に向はんとする三齢頃俄の暑さに會ひ桑の成育が急激になつて內容充實せぬ桑を給したのや、の暑さにて蠶兒の疲勞せる事及四五日早く上簇したなどが原因らしく見られてゐるので昨今上簇中のものは大切の時期、過般の暑さに會はなかつた事となるから數日中に出廻るものは餘程繭質も良好になるであろうと見られてゐるが每年早きもの程優良繭を出すが本則となつてゐるのに比し本年はこれに反比例して前記の如き質狀にあるのでその前途は刮目の焦點となつてゐる

# 健康保險講演と活動
## 十五日平劇場で

福島縣健康保險署では來る十五日午後五時から平町平劇場に於いて健康保險法講演會並に健康保險に關する活動寫眞會を催す筈であるプログラムは

「一寸法師」「菌軍征伐」「弟子と棟梁」

# 仁和寺の僧と間違へられた坪井哲
## 松竹下加茂の「怪盜沙彌麿」

松竹下加茂映畫「怪盜沙彌麿」

「怪盜沙彌麿」で小石組が仁和寺にロケーションした時のこと坪井哲と小澤若一郎の二人、ノコノコ御室の境內を歩いて居ると折柄金堂に御詠歌を上げに來る善男善女の連中頻りにおぢぎをする、何故？僧玄坊に扮した坪井哲の後から頭をそつた小澤若一郎がついて行くさまが丁度仁和寺の坊さんと間違へられたのだ、當の坪井哲その者も、一々叮嚀に返禮して行くのも可笑しいが生臭坊主の小澤若一郎が笑ふこと〳〵。

# 虛報を尻目にマキノ益充實す
## 怪男兒南光明を始め　五月、新平等續々參加

マキノが昨年名古屋に建設した中部撮影所を休止したことに就いて、いろ〳〵虛報が流布されて所々に流れてゐるがこれが實狀は最近省三氏が健康を害し加ふるに過般の火災等にて從來の經營方針を改めた結果一時中部撮影所を閉鎖したもので今後は京都御室スタヂオに全力を傾注して優秀映畫の製作に沒頭する計劃である、此のために目下人氣俳優が續々入社中であるが、現在入社決定せる俳優の中主なる者は永年日活で獨特の人氣を持つて居た快男兒南光明が打續く省三氏の不幸に同情しマキノの子になつたつもりで活躍したいと申込んで來たので根岸日活常務を通じて交渉した處、日活も光明の心情を壯として是れを快諾したのを始めとして近代座の五月信子一座が男女優十六名を、高木新平一黨十六名を率ゐて乘り込むといふ盛況に御室撮影所は頗るこれ等の俳優を集めた今後のマキノ運動の飛躍は必らずや刮目的發展を見せるであらう。

# 夏季に入つて多い性的の犯罪
## 密行巡査を配して　平署が嚴重取締

平町地方は縣內の他地方に比較して風紀が非常に惡く性的犯罪も可成り多いので警察當局はこれが取締は相當頭を惱ましてゐるのが夏になると風紀上の問題が益々多くなり風俗を紊し或ひは變態性的な犯罪が不良少年少女に依つて行はれる。平町に於て不良少年少女の根城となるのは平松ケ岡公園、新川堤等で盛んに風紀を紊して居るので平署では取締方針を立て徹底的に取締る由だが、數日前松ケ岡公園に女數名某があやしの行爲をなした事實もあり、更に新川堤では平町某醫師が看護婦を相手に風紀を紊す樣な事をしてゐた事實もあるので、既に初夏から此の種の風紀上の問題が多くなつて來た爲め平署では斯る場所に警察官を密かに忍ばせどし〳〵檢擧して處分する方針である

# 仙臺放送局で繭相場を放送
## 來る十六日から　四倉市場の分を

石城販賣利用組合四倉繭市場は愈々十三日から開場したが本日の出廻は飯野高久方面のみで郡下全部の出廻りは十五、六日からであらうと豫想されてゐる尚同市場の取引相場は來る十六日から仙臺放送局から放送される筈である

# 磐城訓盲院役員會
## 預金の對策

財團法人磐城訓盲院では來る十一日午前十時から同院會議室に役員會を開催し磐[illegible]預金對[illegible]の中に協議した

# 社告

營業部員　一名

廿歲以上卅五歲以下の活動家を至急募集す

本人履歷書持參午前中來談あれ

磐城新聞社

# のさばり出した酌婦とエプロンの女
## 魔窟征伐を開始する平署

昨今平町では酌婦などが密かに風紀を亂して心ある人々の間に徹底的に此れが取締を當局に要求する者も出た程であるが現在平町の飲食店は酌婦部屋と稱して道路に面した方に部屋を構へ格子の中で鼠鳴きする位いはまだしも道路にまでノサバリ出して客引を聽を見せてゐるので平署では過般から嚴重な取締をしてゐるので漸次改良されて來た樣であるが今年は市內各所に散在してゐるバーとかカフエーが一等がウヨ〳〵と增加して現在二十軒餘を數へるに至つたが此の洋食屋の女給等が盛んに風紀を紊亂しゐるので平署では呆れ返つてばかりも居られず近く不良女給の根コソギ征伐をする事となつた

# かみなり

◆不穏氣もコゾ深刻になる◆呆れて口說くものもない。それとも口もきかずに腹の空かない工夫をしてるのかも知れない。藝者が座敷へ出ても目計りパチクリして唄ふ聲まで時節がら蚊が鳴くようだとは、ア、涼しい◆そのせいか景候でないが置いて合はず居てあはきで廢業する藝者が多い。まづ谷口の喜多勇がアバヨを極め込んだのを筆頭に踊り下鳴っした品澤ノた千代がイッの間にか鑑札を返上してる。出たばかりと思つた梅幸が煙の樣に消えてなくなり友千代なんかも新町クンダリに鞍替だか出稼だか◆平はイヤだといつてながら留任運動で相變らず金魚の出目のような目をして愛嬌をふりまいてるかきつは、スポーツマンから度々仕台を申込まれても應じない堅造だとの評判だが、ナアニ親展は別だよといつてるのもある、ヘン誰が藝者にカッペと思つて申込みをするもんか、負け惜しみちやあねぞ。

# 讀者と記者

## 汗の酬ひ　二木生

農村は收繭によりて潤ふた、たとへその程度が案外であつたにせよ、兎も角一般に多少の潤ひはあつたに相違ない。

積もりに積もつた生活の苦痛もしばらくの間であらうが緩和された、ホットする安心の溜息と共に一家團欒の樂しみも今日ばかりは確にそれと首肯される。だがこの小なる樂しみも、やがて元の辛苦にかへりて我等水呑百姓のなげきの日はくるであらうと思へば、世に水呑百姓ほど果敢ないものが又とあらうか

◇

すこしにても潤はれた丈け、反動の苦患がさぞや心が寒くなる收繭是非の感が所以であるだがいづれにしても里神樂が鎭守の森にひびきて、農村の現在を祝福するのは決してわるい氣持でない。尊き汗の酬ひに心と心とはなごやになりて村から村へつゞく平和の色は爭ひがたい

◇

初夏の農村收繭後の農村は皆時の天國だ水呑百姓の我れ等にも矢張り樂しさは來たには來た。たゞせめて二ケ月をやむなくんば一ケ月を、二十日を、十日を、生活の苦痛から脫して心ゆく限り歌ひつ踊りつしたいものだ。

## 其筋の威令を望む　小泉生

自動車の走る速度にはそれ〳〵取極めがあつて、時間と場所とによつて一樣でないのは言ふ迄ない。

◇

ところが最も迷惑を感ずるは、イヽ氣になつて乘合自動車が砂塵を蹴立てゝ傍若無人に疾走することだらうか、危なくて危なくて見て居られず、それにこの頃ひ自動車がかけゆく跡は塵と砂とで暗黑となり、道ゆく人々の髮の毛から着物から口から鼻からのすべてを忽ち汚してしまふ。

◇

平の街上をこの狂ひ自動車がさも偉さうにハネ廻つて、あたり構はずに有毒菌を砂と塵とにませて撒布するのを其筋では平氣で看過して御座るが、取締法はないものか、せめて市中は徐行する樣に示達が出來ないものだらうか、自動車に對する苦情と非難と愁訴と怨恨は積り積つて居ることだから自動車營業者も注意するが肝要だが

◇

何を云ふにも自制心の薄い運轉手が多く、儲けんことのみに腐心して公德心の缺けて居る營業者が多いのだから馬の耳に念佛と世の非難を聞き流してゐる、切に其筋の威令を望む。


營業品目　絹糸、絹紡績　綿糸、染糸、組紐　漁網糸、人造絹糸　カタン糸、韈組用加工糸　異絹、其他糸物一式

東京市日本橋區通油町

株式會社　藤掛商店

糸界の羅針盤糸細通報御一報次第直送　電話浪花三五一一番　振替東京三一四〇番

小店員募集

十五才以上十七八才迄　五名

小學校卒業程度御希望の方は磐城新聞社御出で下さい。委細面談

釀造元　清世界　𠮷　清水屋

石城小名濱町

銘酒　各炭鑛御用達

小野晋平　電話六番

日東のラジオ

最新高級のラジオ製造販賣　並に部分品提供

當分の間奉仕的破格値段　三球セット取付共

A　百貳拾五圓
B　百　圓
C　七拾　圓

御用命次第店員をお伺ひ致させ懇切御相談に應じます。

平町白銀町　日東商會　電話四二八番

登録商標　𠮷　釀造元

福島縣平町　山崎合名會社　電話（營業部一〇番　釀造工場二七番）　振替東京一九七五五番

東京支店　上野車坂町四三　電話下谷五七二二番　振替東京六八三二二番

赤心堂病院　平町田町（電四七五）

外科　泌尿器科　新妻由五郎
產婦人科　野秋善直
內科　小林四郎
藥局 X光線　木下寅市